

解決したい
課題

サービス性の拡張
取得センシングデータの「可視化」と「データの分析」

株式会社デンソー
名鉄バス株式会社
2023年3月

R4実証内容

インフラ協調システムは、車両と道路付帯物（電灯など）のインフラが無線通信で迅速かつ適切に情報をやり取りし、事故の防止や渋滞緩和、自動車運転支援などを実現するための仕組みのこと

1. 交差点LEDサイネージによる注意喚起

- 交差点に近づく移動体（歩行者、自転車、自動車）を検知し、交差点を通過しようとする全ての車両、通行者に対して、LED表示による注意喚起を行う



2. 横断歩道スポットライトによる注意喚起

- 横断動作を検知してスポット照明を点灯させ、通行車両へ注意喚起を行う
- 自動車のライトを検知してスポット照明を点灯させ、横断する歩行者等へ注意喚起を行う

取組成果

1. 交差点LEDサイネージの効果

- サイネージ設置前と比較し、自動車が**一時停止する回数が増加**した。**停止率40%弱**で課題は残る
- アンケートの結果、**LED表示は有効が64%**だが、**注意喚起の内容が分かりづらい**、**設置場所が悪い**という課題も把握できた

2. 横断歩道スポットライトの効果

- 減速する車両27%**、**減速しない車両73%**
- アンケートの結果、**スポット照明は有効が73%**だが、通行者が**仕組みを理解**する必要がある



結果考察

- サイネージは交差点の安全確認が完了する時点まで表示が見える位置に設置し、**端的に状況が分かりやすい表示内容への改善**が必要
- 横断歩道直前でのスポット照明の判別を容易にする工夫、横断歩道内の歩行者を照らすなどの**夜間での認識効果の改善**が必要

実装に向けた課題

- センサーとカメラの普及には、防犯、交通安全、交通量や災害情報の把握など、**多くの情報が取得でき、有用性は高い**
- 照明灯一体型**など設備の更新とともに導入検討の余地があるが、**費用対効果が課題**である